

情報処理センター長退任にあたって

宮城教育大学情報処理センター長 小野 元久

2008年に情報処理センター長に就任致しましたが、2015年定年退職とともに退任いたします。この間、情報処理センターを巡って様々なことがありました。

最も印象に残っていることは、2011年東日本大震災に見舞われたことです。本センターでは、耐震工事が終了していたこともあって、建物の被害はなく、センター内の機器の破損も軽微なものでした。ただ、UPSを導入していたにも関わらず、仙台市内全域の停電によりシステムがダウンしてしまいました。そのため情報処理センターのシステムを使用して教職員ならびに学生の消息を把握することが出来なくなるなどのダメージを受けました。しかし、未曾有の大災害の中、学内外からの強力な支援と努力があって、3日後にはシステムを復旧させることができました。情報処理センターとしては、危機管理の甘さを突かれた格好になってしまい、それはショックな出来事でした。その後、この経験を生かし、教職員・学生の安否確認システムの構築、災害対策用サーバおよびディーゼル発電機の導入等の対策をいたしました。合わせて災害発生を想定してのサーバ切替手順の作成、非常時対策の訓練等も開始しました。

一方、情報セキュリティポリシーを策定したものの、日常のシステム運用にあたっては多くのことがありました。ウィルス感染の頻発、P2P利用によるファイル共有、システムの連続した不具合の発生と正常復帰に時間を要した等、まるで事件・事故・不具合対策の事例集作りでもやっているような感じでした。しかしながら、いずれも大ごとにならずに済んで来たことに安堵しております。

情報処理センターが当たり前機能しているということは、情報処理センターのメンバーやSEの皆さんの日常の地味な仕事が行われている証であり、頭が下がる思いです。いずれにしても事件・事故発生の未然防止のために、危機管理を徹底して行くことの大切さを実感させられた情報処理センター長就任期間でした。多くの方々に支えられて情報処理センター長を全うすることが出来たことに感謝申し上げます。